

さくら



令和5年5月22日(月)

G7サミットに思う



新学期から1ヶ月半が経とうとしています。新学期当初の「頑張ろう」という気持ちは持続できていますか。その気持ちが薄れてきたとしたら、自分自身に活を入れて仕切り直しです。

そのためには、家庭生活では規則正しい生活を心がけ、学校生活では授業を大切にしましょう。授業を大切にするために、居眠りをしない、私語をしない、先生によって態度を変えないことは当たり前です。これからもしっかり頑張りましょう。

さて、19日から21日までの日程で、主要国首脳会議（G7サミット）が行われ、世界的な課題について意見が交わされました。昨日の新聞には、G7首脳声明の要旨が掲載されていました。

その中の次の項目に私は注目しました。「世界のあらゆる場所で、武力や強制力により平和的に確立された領土の現状を変更する一方的な試みに強く反対する。武力による領土の獲得が禁止されていることを再確認する」

ロシアのウクライナ侵略は今も続いています。このことに対し、国際世論は非難の声をあげていますが、ロシアのプーチン大統領には一向に届いていないようです。また、ウクライナ、ロシアの双方の多くの人命が奪われていることはあってはならないことです。さらに戦局不利が伝えられるロシアが、核兵器使用をちらつかせていることはとても恐ろしい話です。

私たちはこの侵略を、日本から遠く離れた国のことであるとは思ってはいけません。なぜなら日本はロシアの隣国であり、日本固有の領土である北方領土が現に不法占拠されているからです。世界の軍事バランスが崩れれば、日本もウクライナと同じ状況になる可能性があるのです。

G7首脳は、被爆国日本の原子爆弾投下地である広島で、平和への誓いを再確認しました。サミットへ電撃参加したウクライナのゼレンスキー大統領も、平和祈念公園の慰霊碑に花を手向（たむ）けました。彼が献花する光景は、核の脅威にさらされている国の大統領としての世界への強いメッセージであると感じました。

戦争のない平和な世界を実現するためには、私たちはどのような取組をすればよいのでしょうか。このことは、私たちがグローバル社会の一員として、絶えず考え続けなければならないことなのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

